

複言語主義に基づく英国の小学校におけるフランス語辞書引き学習の実践

深谷 圭助* 吉川 龍生** 王 林鋒*** 関山 健治****
 ショーン・カッファーク***** ジャネット・アドセット*****

French Lexicographic Learning “Jishobiki” Practices in the British Primary School Based on Plurilingualism.

FUKAYA Keisuke YOSHIKAWA Tatsuo Wang Linfeng SEKIYAMA Kenji
 Sian Cafferkey Janet Adsett

要 約

本研究では、CEFRの理念である複言語主義に基づく汎用的言語学習方略モデルとしての「辞書引き学習」が英国の小学校におけるYear6児童のフランス語教育においてどのような効果を上げていたのかを検証する。具体的にはこの汎用的学習方略モデルとしての「辞書引き学習」実践が複言語主義のねらいを満たしていたかを、教師と児童の間で行われたフランス語学習と辞書引き学習に関する応答の逐語記録の質的分析により検証する。

キーワード：フランス語教育、辞書引き学習、ヨーロッパ言語共通参照枠、CEFR、複言語主義、複文化主義
 英国の小学校教育

1. はじめに

ヨーロッパ言語共通参照枠（以下、CEFRと略記）が示されて以来、国際社会の言語教育現場においてCEFRは広く受容されるようになった。ところが、日本では言語教育の評価枠組のみ強調され、CEFRの基本理念が十分理解されないまま受容されている¹⁾。CEFRの基本理念のひとつに複言語・複文化主義があり、多言語・多文化主義と異なり、1つの国に様々な言語や文化があることを許容するという段階から、国民一人一人の内に複数の言語や複数の文化を保持する段階に移行しなければならない。境一三によると、欧州評議会は、複言語主義(Plurilingualism)を「能力としての複言語」と「価

値としての複言語」の2つに分けて定義しているという。「能力としての複言語」の定義は、「すべての話者に内在する、単独ないし教育活動によって導かれて2つ以上の言語を用いたり、学んだりする能力」(欧州評議会言語政策局2016年、pp.18-19)、「価値としての複言語」の定義は、「(複言語主義は)言語に対する寛容性を養い、その多様性を積極的に容認する基礎となる。複言語の話者が自らのその能力を意識することは、自分自身あるいは他者が使用する言語変種がそれぞれ同等の価値を持つことへの同意に結びつけていく」(同上)という。複言語主義において重要なのはこれら2つの定義が用意されている点である²⁾。

国民一人ひとりが複数の言語や複数の文化を受容

* 中部大学 現代教育学部現代教育学科

** 慶應義塾大学 経済学部

***大阪教育大学大学院 連合教職実践研究科

**** 中部大学 人間力創生教育院

***** 英国ウスターシャー州Castlemorton CE Primary School

*****FFT Education Ltd

することを目指す場合、言語教育は益々重要な役割を持つと共にこれまでとは異なる3つの目標を掲げる必要があると考える。目標の1つめは、複数の言語や文化を理解しそれを活用するだけでなく、言語や文化を架橋する習慣を獲得することである。2つめは、複数の言語や文化を学習する際、それぞれの言語的・文化的性質の異同を理解するメタ的視点を獲得することである。3つめは、これらの習慣や視点を獲得し、複数の言語学習を効率化するための汎用的な学習方略モデルの開発をすることである。

本稿では、CEFRの理念である複言語主義に基づく汎用的言語学習方略モデルとしての「辞書引き学習」が英国の小学校におけるフランス語教育においてどのような効果を上げていたのかを検証する。具体的にはこの汎用的学習方略モデルとしての「辞書引き学習」実践が複言語主義のねらいを満たしていたかを、教師と児童の間で行われたフランス語学習と辞書引き学習に関する応答の逐語記録の質的分析により検証する。

2. 英国の小学校における第1言語（英語）辞書引き学習実践に関する研究の蓄積

英国ウスターシャー、キャッスルモルトンCE小学校³⁾における辞書引き学習の実践は2017年3月に深谷圭助がJapan Foundationの支援により同校で導入授業を実施したことに始まる。以後、同校教諭ショーン・カッファークが、Year3-4の児童に対して、週1回、英語辞書引き学習指導を含めた語彙学習を実施している。

なお、これまでのイギリスにおける第1言語である英語辞書引き学習の実際とその成果は、深谷圭助、吉川龍生、関山健治「イギリスの公立小学校における辞書引き学習の導入と教師の学び」中部大学現代教育学部『現代教育学部紀要』第14号、2022年、pp27-35)、深谷圭助、吉川龍生、王林鋒、関山健治「イギリスの小学校英語教育におけるJB（辞書引き学習）モデル導入事例に関する考察」日本外国語教育推進機構『複言語・多言語教育研究』（第8巻、2020年、pp151-160）、深谷圭助、吉川龍生「語彙習得学習における語種間共通方略モデルの開発とその実践—辞書引き学習の動機づけと方略の有効性をめぐって

—」『現代教育学部紀要』（第12号、2020年、pp47-55）、深谷圭助「子供と言葉の出会いに関する国際比較研究—イギリスと日本における『辞書引き学習』の導入事例を中心に—」（『現代教育学部紀要』第10号、2018年、pp47-59）等において明らかにしている。

3. 英国の小学校における第2言語（フランス語）辞書引き学習実践

英国ウスターシャー州キャッスルモルトンCE小学校（Castlemorton CE Primary School）では、2020年3月から2022年7月にかけて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で辞書引き学習実践が滞っていた。しかしながら、2019-2020年度以前にYear3-4で英語辞書引き学習指導を受けていた児童らは、フランス語学習においても自律的に辞書引き学習を行い、英語学習とフランス語学習の双方で辞書引き学習の習慣を維持していた。本稿では、同校におけるYear6の児童と担当教師のフランス語辞書引き学習に関する会話の逐語記録を分析する。

(1) フランス語学習における語彙学習について

本逐語記録は、2022年9月8日、Year6に進級したばかりの同校児童がフランス語語彙学習の省察を行った教師によるインタビューの記録である。なお、フランス語のカリキュラムはYear3-4（Red Class）のカリキュラムから始められている。

教師は英語を第1言語とする児童らに対し、フランス語と英語との違いに気づかせる教材として「クリスマス・ストーリー」の教材を用いていた。同教材はフランス語単語と英語単語を対比させることを目的としている。具体的には、①英語では動詞が時制によって変化するのに対して、フランス語では主語人称代名詞によって動詞は変化すること、②フランス語の名詞はすべて男性名詞と女性名詞に分類され、これにより冠詞や形容詞が変化することを示唆している。一方でその違いの過多を認識すればするほど、児童の語彙学習の意欲が削がれる傾向が顕著になるが、教師はこれらの単語の違いを文法的に整理することで、語彙の知識を活用することの方向性

を示している。

教師：(クリスマスのストーリーで学習すると)とても覚えやすいものですね。
 児童：クリスマス・ストーリーの中の出来事は、単語にも慣れるのに役立ちます。知っている単語を、今やっているシーンに当てはめることができるんです。だから、そう、いいことなんです。
 児童：これをやってから、「ああ、あれも知っている、これも知っている」と、実際に知っている単語がたくさんあるように感じますが、実際にはあまり使いたいとは思わないんです。
 教師：それはあなたがフランス語を学んだばかりだからです。まだフランス語をマスターしていないからです。だから、そう、それはとてもいいことです。なぜなら、それがあなたの脳に定着するからです。そして、その後、中学生になって、毎週フランス語を習って、もっとたくさん話すようになったら、あなたの体、あなたの脳は、その情報をどうにかして手に入れることができるようになるんじゃないでしょうか？そして、“あ、この単語、この単語、この単語はもう知っている”と、情報を取り出すことができるようになるのです。英語では時制によって動詞の語尾などを変えますよね、でもフランス語では、英語以上に人称によって変えているんです。では、そのことを理解するために辞書は役に立ちますか？ 人称が動詞の語尾変化に影響するというのはなかなか厄介なんですよね。男性名詞と女性名詞。英語にはそれがありません。

(2) フランス語辞書とフランス語学習

以下の逐語記録では、フランス語辞書を読むことによるフランス語と英語の違いに関する気づきが述べられている。教師による「フランス語辞書がフランス語学習を助けているか」という問いから英語とフランス語の異同に関する様々な気づきが提出されていることが分かる。例えば、英語圏における「アイスクリーム」という言葉は、フランス語では全く異なる言い方をする点なども、児童の興味を引く点であることが分かる。児童の「英語とリンクしているのはフランス語だけではないのですから、辞書で単語を調べ、『この単語の意味はわかるがこの単語はどの単語から来たのだろうか』と考えることが大切です。そして、その言葉を別の言語で見ると、類似点が見えてくるのです」と述べたことに対し、教師が「それがヨーロッパの言語の面白いところですね。英語は他の言語から単語を借りるのがとてもうまいですから。たとえば、“café”という単語は、私たちが借用したものです」と応答したことから分

かるように、Year6になったばかりの児童に対して、フランス語辞書引き学習を通して、英語の特質を他言語との関わりの中で相対化しようとしている点が確認できる。これは複言語主義における「言語の多様性を容認し、言語の価値を等価に置くこと」に関わる児童の気づき、教師の示唆でもあると見做すことができる。

教師：フランス語辞書は、フランス語学習の助けになりますか。
 児童：ええ、なります。辞書には略語がありますね。(たとえば) 男性形の意味で、“mas”と書いてありますね。女性形であることを示す“fem”もあります。これは本当に分かりやすい特徴です。
 児童：そして、違う言語の単語をほとんど知っておくことも重要です。？その国に行けば、すべての単語を知り、ほとんどの単語を知ることができるので、その国でも練習ができます。
 児童：私の家族の中でいつも引っかかっていたのは、フランス語の「アイスクリーム」にあたる語でした。
 教師：重要な単語ですね。
 児童：そうですね、重要です。
 教師：それが何だか思い出せますか？
 児童：“Cornet de glace. (アイスクリームコーン)”
 教師：“Cornet de glace”、実際にお店でアイスクリームを頼めますか？
 児童：思い出せません。
 教師：Je voudrais, は I would like (～したい) という意味です。「はらぺこあおむし」の話をしましたね。アイスクリームコーン (cornet de glace) と一緒に。覚えていますか？
 児童：はい。
 教師：「スイカ」、いつも笑ってしまう語ですが、覚えていますか？本当に珍しいんですよ。“p”で始まるんです。
 児童：だから、覚えやすいのですよ。
 教師：“pastèque パステク (スイカ)”。
 児童：あと、“sausage (ソーセージ)”は結構覚えやすいですね。“saucisse (ソーセージ)”のような感じですね。
 児童：そうですね。
 児童：りんごは“pomme”です。
 教師：そのとおりです。いいですね。では、これが言語学習にとって良いことなのかどうかを尋ねられたとしたら、英語でもフランス語でも、あるいは高校に上がってドイツ語やスペイン語を学ぶときでも、これが外国語を学ぶ、伝授する、良い方法だと言えると思いますか？
 児童：そうですね。なぜなら、リーディングも同時にできるからです。
 教師：そう、それが大事なんです。
 児童：なぜなら、書き留めるとき、それが正しいかどうか、それが何であるかを確認するために何回か読んで、頭に定着させるからです。
 児童：そうです。もし忘れてしまっても、フランス語と

英語の辞書に載っているの、いつでも振り返って探すことができます。そして、“maise”のように、単語がぶら下がっているものもあるので、スキップして、それが自分の欲しい単語かどうかを確認することができます。児童：それから、違う言語の辞書に移っても、英語の単語と違う国の単語に慣れることができます。ドイツ語の「ようこそ」は、英語の“welcome”に音がよく似ていると思います。つまり、英語とリンクしているのはフランス語だけではないのです。そのため、辞書で単語を調べ、「この単語の意味はわかるが、この単語はどの単語から来たのだろう？」そして、その言葉を別の言語で見てみると、類似点が見えてくるのです。

教師：それがヨーロッパの言語の面白いところですね。英語は他の言語から単語を借りるのがとてもうまいですから。例えば、“café”という単語は、私たちが借用したものです。「バンガロー」はどうでしょう？覚えていますか？これはいつも私の話のネタになります。「バンガロー」という語がどこから来たか覚えていますか？

児童：いいえ。

児童：ハンガリーみたいじゃないですか？

教師：いいえ、それよりもっと遠い国です。インドからです。

児童：インド、そうなんだ。

教師：イギリス人が帝国を築いたとき、(イギリス人は)インドのような場所に行って暮らし、「シャンプー」や「バンガロー」のような言葉を持ち帰ったんです。それはとても興味深いことです。

児童：ええ。

児童：例えば、“café”や“shampagne”は、あなたが想像するのは違う綴りで書かれているので、英語の音調で発話されても、違う国の言葉であることが分かります。だから、なかなか面白いんですよ。

教師：つまり、音があなたが期待していたものとは違うということですか？“champagne”の場合はどうでしょう？

児童：おそらく、CHでなくSHで始まるような感じでしょうね。でも、それは明らかにフランス人がその種の単語を使うからです。それから、(英語では)普通は最後に“e”を発音しませんが、フランス人はそうします。理由は思いつきませんが。

教師：英語でいうところのスプリット・ダイグラフ⁴⁾のようなものではないですか。

また、英語には、「シャンプー」や「バンガロー」など、インド・ヒンディ語、ヒンドウスターニー語からの借用語が見られること、英語の語彙とフランス語語彙では、語の成り立ちや音韻が異なること、そして、英語語彙が、様々な言語、文化、地域からの影響を受けて成り立っていることがこの会話逐語記録から分かる。これらの発言を通して、同校の教師と児童がフランス語学習において英語語彙との異同に注目しながら第2外国語の学習を行っているこ

とが分かる。これらのフランス語語彙に関する気づきはフランス語辞書を日常的に活用していればこそこの気づきであり、テキストベースによる文章読解や、文法学習だけでは、日常に関わるフランス語語彙の英語語彙との比較に十分な気づきを得ることができない。英語とフランス語の語彙に対する気づきを促す発見・探求的学習が辞書引き学習により日常的に展開されていたことが窺われる。

(3) フランス語辞書引き学習

以下のインタビュー逐語記録は、フランス語辞書引き学習に関する教師と児童の会話の逐語記録である。教師は児童に対して、メタ言語力を養う上で辞書引きがどのように役立っているかについて尋ねている。児童は、フランス語辞書引きにより、フランス語学習で最初の「難しさ」となるフランス語発音を克服することができることを指摘し、フランス語辞典を手にするようになってから微妙に発音の違う単語でも正しく発音できるようになったと述べている。また児童らはそれまで英語辞書での辞書引き学習に取り組んでいたためか、立項されている見出し語を見つけてから語釈を読むというより、語釈を読んでから見出し語を読むという双方向的な辞書の読み方をしてきている。

また、児童は、英語辞書引きと同様にフランス語辞書引きにおいても、読んだり引いたりした箇所にはポスト・イットを付けていると述べていることから、辞書引き学習の習慣を維持していたことを窺い知ることができる。

教師：メタ認知とは、あなたがどのように理解し、どのように学習し、どのように情報を処理するかということです。どのように情報を保持し、どのように思い出すかということです。では、辞書はメタ認知の際にどのように役立っているのでしょうか？辞書を使うことで、言語に対する理解が深まったと思うことはありますか？

児童：おそらく単語の発音でしょう。フランス語の辞書を手に入れる前は、私のフランス語はそれほどよくありませんでしたから。

児童：私もそうでした。

児童：ええ、フランス語の(紙の)辞書を使う前はスクリーンを使っていたので、光の反射で見えにくかったんです。それに、辞書には微妙に違う発音の単語が載っているの、どの単語かわからないし、そのおかげで正しい発音ができるようになったんです。

教師：さて、今、フランス語の授業を受けているとしましょう、まあ、明らかに今年は受けていないようですが、今までのところ、知らない単語があったら、どうするのですか？単語を見つけるのにどんな方略を使いますか？

児童：私は通常、辞書を見ます。英語からフランス語を引き、正しい単語を探します。

教師：わかりました、それからどうしますか？すでにチェックした単語にはポスト・イットを貼りますか？

児童：ええ。

教師：わかりました。そして、その単語を書いて、ポスト・イットを貼ることは、後でその単語を思い出すのにどのように役立つと思いますか？それはどのように役立つのでしょうか？

児童：それはちょっと助けになりますね。というのも、1枚貼ると、「そうだ、今その単語を知っている、今使える」と感じるからです。ポスト・イットのようにスクロールして、それを見つけて、「ああ、そうだ、これは覚えている」と言えるのです。

児童：そして、もしあなたが少し前に書きとめた単語を即座に言うように言われたら、辞書をめくって「ちょっと待って、見つけたぞ、この語の意味は何々だ」と言うことができます。特にポスト・イットを貼ると、すぐに答えが見つけ出せるので本当に便利です。

児童：そうすると早くできるんですね。

教師：新しいことを学ぶとき、それを書き留めることで脳に刻み込まれるんです。これは、コンピュータのファイルのようなものです。そして、それは目の前にあるのです。すぐには思い出せないかもしれないけれど、脳内で何が起って、ファイリング・システムの中からその情報を探し出すんです。よくわからないですが、このような感じで説明になっているのでしょうか。それが私の見方です。

児童：ええ。

児童：これはほとんど、あなたが持っているすべてのものを保存しているコンピュータのようなものです。それを取り出して、そこに入れて、スクロールして探し出すことができるんです。

教師は、「メタ認知」という点について児童に質問を試みているが、児童は今一つその意味を理解できていなかった。しかしながら児童らは、①フランス語の紙の辞典を活用するようになって、正しいフランス語の発音ができるようになること、②辞書引き学習を活用して、ポスト・イットに単語を書きこみフランス語辞書に貼ると後で思い出し易くなること、③フランス語単語を記したポスト・イットを貼ることで、記憶に刻まれ、容易に探し出すことができるようになることと述べている。まさにこれらの気づきが「メタ」的な気づきなのである。

(4) デジタル辞書と紙の辞書

以下のインタビュー逐語記録ではデジタル、コンピュータの辞書と紙の辞書の機能の違いについての教師と児童の捉え方が述べられている。児童は、Year3から紙の辞書を用いた辞書引き学習に取り組み、紙の辞書に親しんでいきいるが故に、紙の辞書のよさについて様々な側面から認識しているようである。インターネット検索をすると、様々な間違ったスペルの単語に引っかかる可能性があること、それに比べて紙の辞書は信頼性が高いこと、紙の辞書はいつでも使える状態にあることなど、普段から辞書を使う習慣を持つ児童ならではの発言である。

また、教師は、それまで英語辞書引き学習を通しての英語語彙指導において、語根 (root word) や接頭辞、接尾辞について学んできたことを児童に振り返りをさせていた。そして、それを踏まえ、語源になる単語とその派生語の関係をフランス語語彙学習においても意識することの大切さや、異形同音異義語 (homophones) や同形同音異義語 (homonyms)、false friends (空似言葉) の存在についても示唆していた。このことは、インタビュー逐語記録に登場している教師が、語彙指導において、語彙を理解するための汎用的な能力を重視していることの現れであり、辞書引き学習指導によって、小学生の段階から語彙を暗記させるのではなく、探究的かつ、言語間で共有しうるメタ的な語彙認識の能力を向上させることができることを彼らが期待していることを意味している。

児童が、同じ発音でも異なる綴り方や意味を示す単語、異形同音異義語について、英語と似た発音をするフランス語単語の綴り方の違いや意味の違いがあったとしても、紙の辞典を用いたフランス語辞書引きの習慣があれば、それらを正しく見極めることができる」と述べている。こうした点を踏まえ、児童は「紙の辞書が好き」と述べたのであろう。

教師：コンピュータの方が好きですか、それとも紙の辞書の方が好きですか？どちらですか？

児童：紙の辞書です。

児童：紙の方が好きです、なぜなら、(コンピュータで)長時間やろうと思ったら、目が痛くなるかもしれないからです。それに、単語を探すのが簡単です、なぜなら、

よりよく刷り込まれていて、よりよく見えるかもしれないからです。

児童：例えば、(インターネットで)“up”を検索すると、スペルが間違っているかもしれないし、他の単語が出てくるかもしれません。

児童：それに紙の辞書は本当に信頼できます。インターネットはそうではありません。コンピュータの電源が切れて動かなくなる可能性があるからです。でも、紙の辞書はいつでも使える状態で、いつでも引き出せます。それに、どこにでも持っていくことができます。フランスで新しい単語を覚えたとき、誰かがその単語の定義を英語で教えてくれたら、辞書でその単語を見つけて書き留めれば、次に行くときにはその単語の意味がなんとなくわかっているからです。

教師：それは本当に良いポイントです。そのことはあまり考えていませんでした。それは実にいい方法です。周りの単語を聞きながら、その単語の意味を調べれば、それが自分の助けになります。そして、フランス人が話しているのを聞くので、発音にも役立ちます。

教師：フランス語(の音)は英語よりもずっと柔らかいので、彼らがどう発音しているのか、そして自分はどう発音すべきなのかを聞くことができますね。

教師：ええ。

児童：そうです。そして、その類似性は定義を知る上でも役立ちます。フランスの人たちの言葉を聞くと、その言葉が何なのかがなんとなくわかります。シャンパンやカフェのような言葉です。

教師：辞書を読むことは、一般的な言語構造を理解するのに役立つと思いますか？

児童：言語構造？

教師：覚えていますか、例えば、私たちは語根についてたくさん勉強しました。私たちがどのように語根をとって、それからさまざまな接頭辞や接尾辞を加えるのか、そして、それらの語族がどのように(別の語根と組み合わせるのか)……辞書を使うとき、こんなことに気づきましたか？例えば“achieve”という単語がありますが、“achieve”、“achievement”のような形がありますよね。これらの(派生語)が全て(辞書には)出ています。つまり、語源(語根)となる単語と、そこから派生するすべての単語を見ることができるんです。それはどのように役立つと思いますか？

児童：ええ、辞書には(語根が)同じ単語は(見出し語に)載っていないかもしれませんから。例えば、“lounging”という単語を探そうとすると、“lounge”と出てくるかもしれませんが、“lounging”とは出てきません。

児童：通常は“lounging”と“lounge”と……のようになるのが(見出し語に)出てくるかもしれませんが、“lounging”は出てきません。

教師：ええ、私はそのことについて少し考えていました、その単語が意味することの種類についてです。つまり、その語根を学べば、そこから他の単語を作ることができるわけです。あるいは、新しい単語に出会ったとき。辞書を使うことで、新しい単語が何であるかを理解するのに役立つと思いますか。変に聞こえるかもしれませんが、(語根を知っていれば)辞書を使わなくても(意味を類推

することができますか？)。

児童：ええ。

教師：私の言っていることがわかりますか？語根を理解しているのだから、それは……

児童：特に、同じセクションにあるから、少しは役に立つかもしれませんね、もし、そのような単語があったら。英語の辞書には時々、異形同音異義語がありますよね。

教師：そうです、異形同音異義語や同形同音異義語です。

児童：そう、同じスペルでも違う意味になることがあるんです。フランス語でもそれはかなり役に立ちます。どうやるのかよくわからないのですが。でもそうすれば、その単語が実際に何を意味するのか、文脈の中でどのようなものなのかを知るのに役立ちます。

教師：高校に入ったら、高校の英語の先生がfalse friends(空似言葉：発音は似ているのに言語によって意味が違う単語の組み合わせ)について話しているのを聞くでしょう、そう、あなたがそれを見るとき、単語は。だから、“travis”という単語をフランス語にすると、“travel”に見えるのです。これは「旅行」ではなく、「仕事」を意味しますから、false friends(空似言葉)ということになります。だから、偽りの友達(false friends)なんです。ある種、一つのものであるかのようにあなたを騙そうとするんです。辞書を使うこと、あるいは辞書を使ったことがあることは、それらのfalse friends(空似言葉)を見分けるのに役立つと思いますか。

児童：ええ、辞書にはたくさんの単語が載っているので、何が「本物」で何が「偽物」かを教えてください。「偽物」は英単語にとっても似ていますが、全く違うことを意味します。

児童：そして、すべての意味の下に書いてあるので、それが実際の単語かどうか、いつでもざっと見ることができますね。

(5) フランス語辞書を使う習慣について

以下のインタビュー逐語記録では、フランス語辞書を使う習慣に関する教師と児童の捉え方が述べられている。

すでに、Year3から辞書引き学習に取り組んできた児童たちには既に辞書引きの習慣が定着していた。「新年度になるとフランス語でいろいろな種類のものをいろいろな科目で学ぶことになるのでかなり役立つと思います」という児童の発言はそれを示すものである。

また、児童が「最初に使い始めたときは家に帰ったら車の中でやっていました。それから家に帰ってベッドで数分間横になってそれから辞書を引いていくつかの単語を見つけます」と述べていることも、日常における辞書引きの習慣が定着していることを窺わせる発言である。児童らは、紙の辞書を使うよ

うになりコンピュータで意味を調べていた時よりもよく辞書を引くようになったことを振り返り、スクリーンの辞典に慣れている兄弟姉妹は紙の辞書は使いたいと言わないだろうから、自分たちが紙の辞書を自由に使うことができてよかったと述べている。紙の辞書を引く習慣を持つ児童は、「以前は、誰かに聞かないといけなかったし、多くの人がその言葉を知らなかったの、辞書がないともっと大変でした。でも、辞書を使うことで、多くの時間を節約し、他の人を煩わせることもなくなりました。だから、念のために持っておくと便利」だとか、「(辞書引きは) 語彙と言語能力を高めることができます。これは、ほとんどの人にとって生涯を通じて非常に重要なこと」などと辞書引きの習慣の重要性を指摘している。

教師：フランス語の辞書を使う習慣はありますか？

児童：ええ、最近フランス語をあまりやっていないので、しばらく使っていませんでしたが、新年度になると、フランス語でいろいろな種類のものをいろいろな科目で学ぶことになるのでかなり役に立つと思います。一般的な単語だけでなく、(固有名詞として) 有名な場所の単語も入っていて、英語では違う言い方をするかもしれませんが、フランス語辞典にあるのならフランス語で正しい言い方を知ることができるんです。私はいつも思うのですが、実際のフランスの観光スポットのフランス語の名前は、英語の名前よりもずっと素敵です。

教師：では、授業で辞書を読む以外は、どんな時に辞書を読んだり使ったりするのですか？

児童：最初に使い始めたときは家に帰ったら車の中でやっていました。それから家に帰ってベッドで数分間横になってそれから辞書を引いていくつかの単語を見つけます。

児童：ポスト・イットは、1枚の付箋に複数語、書けるので、とても便利です。私が最初に始めたときは、1つだけ書きましたが、そうすると、ポスト・イット・ノートが本当にすぐになくなってしまいうんです。でも、行数がかなり多いので、同じページに5つずつとか書けるし、別のページには別のポスト・イットで書けるんです。

教師：新しい本を読んでいるとき、つまり、知らない本を読んでいるときに、知らない単語が出てきたら、どうしますか？その単語の意味や言い方をどうやって調べますか？あなたならどうしますか？

児童：文章を見て、それが何とつながっているのか(文脈を)確認します。それでもわからないときは、辞書を引きます。家には姉や弟から受け継いだものがたくさんありますから。

児童：(姉や弟は) 辞書を使おうとは思わないでしょうから、これ(辞書)をもらえるのはとてもうれしいことです。実際、今はコンピュータで単に意味を調べるだけだった昔の頃以上に辞書を引きますから。

児童：以前は、誰かに聞かないといけなかったし、多くの人がその言葉を知らなかったの、辞書がないともっと大変でした。でも、辞書を使うことで、多くの時間を節約し、他の人を煩わせることもなくなりました。だから、念のために持っておくと便利なんです。

児童：辞書引きは、語彙と言語能力を高めることができます。これは、ほとんどの人にとって生涯を通じて非常に重要なことです。

教師：もう1年、小学校で学んだ後にハイスクールに行ったら、他の言語も学ぶことになるよね。そのときに、フランス語の辞書を学校に持って行こうと思う？それは良いことだと思いますか？

児童：持って行くと思います。単語を覚えておくのに役立つし、授業は長くなるし、宿題も増えるから、そこに入れておけば、“ああ、そうだ、これは知っている”ということになるからそうします。

児童：新しいことを学ぶので、おそらく新しい単語をたくさん見つけることになるでしょう。これからもっとたくさんの教科を学ぶ際に、辞書はその教科の単語を調べるのに本当に便利です。辞書はそのテーマに関する単語を調べるのにとても役立ちます。

児童：もし、(学校の規則で) 辞書を使っちゃいけないと言われたら、居残りをすることになりますよね。

教師：あなたが辞書を持っていることに文句を言う教師はいないと思います。あなたは大丈夫だと思います。

児童：(辞書は) 学業に関係のあるものです(から学校へ持って行くことが禁止されることはありません)。

教師：ええ、大丈夫だと思います。実際、Hanley 校では、辞書を持ち込むと、ハウスポイントか何かが加算されるかもしれません。ただ、7年生にどうなるか、これをしていない他の学校より、7年生の学習が少しは充実しているかどうか、見てみるのも面白いかもしれませんね。

児童：私が以前通っていた Upton 校では、4年生のときに、ハイスクールに進学しなければならないことは分かっていましたが、フランス語はほとんどやっていなかったの、心配でした。Hanley 校ではフランス語が重要な科目だと知っていたので、「もし、自分が知っておくべきことを何も知らなかったらどうしよう」と思って、とても不安でした。

教師：すぐに覚えられますよ、私を信じてください。

児童：それに、もし誰かにそれが何なのか聞かれたら、小学校で習ったものだし言えればいいし、覚えているものだから、とてもいいじゃないですか。

教師：ええ。

児童：辞書引きが使われるようになるといいですね。別の学校に行っても、他の人が辞書引きのことを知っていて、他の人も使い始めて、それが広まって、普通の学用品のように使うようになるといいですね。

教師：辞書を読んで、ポスト・イットに単語を書くわけですが、その後、どのような場面で、すでに書いた単語に戻ることがあるのでしょうか。ポスト・イットをどのように見直したり、再検討したりするのでしょうか？あるいは(見直さないで) ポスト・イットに1回書くだけですか？

児童：たぶん毎晩です。

教師：ああ、毎晩ですか。すべてのポスト・イットを見直すのですか？

児童：たぶん、それをやっていたとき、「ああ、ポスト・イットがある」というような感じだったと思います。そして、それを見直すと上手くいくんです。

児童：家で宿題をしているときに、その意味がわからず、助けてくれる先生もいないようなとき、これはミニ先生のようなもので、探したかった単語の意味をすべて得るのに役立ちますね。

児童：ポスト・イットに書いた単語のメモを何度も何度も読み返すと、本当に覚えやすくなりますし、脳に馴染みやすくなります。そして、何度も何度も繰り返していれば、その単語を使うことができます。なぜなら、その単語をよく知っているの、辞書を引くことなく普通に使うことができ、その後に語釈を見て、覚えて、使うことができるからです。だから、もっと手っ取り早いんです。

教師：物事を復習するときに、突然「あ、この単語知ってた！」と思って、その単語を知っていることを忘れていた自分に驚くことはないですか？

児童：ええ、それは脳の奥にあるものが手前に移動するからです。

児童：そして、それが飛び出してきて、「ああ、そうだ、覚えている」という感じです。

児童：それは、他の誰かがそのことについて普通に話し始めたときだけです。でも、辞書の場合は、すでに知っていることだから、そんなことはありません。誰かが「これに関連する言葉を思いつく人はいますか？」と尋ねたら、スクロールして、それに似た言葉を見つけることができるんです。

児童の「ポスト・イットに書いた単語のメモを何度も何度も読み返すと、本当に覚えやすくなりますし、脳に馴染みやすくなります。そして、何度も何度も繰り返していれば、その単語を使うことができます。なぜなら、その単語をよく知っているの、辞書を引くことなく普通に使うことができ、その後に語釈を見て、覚えて、使うことができるからです」という発言は、辞書引き学習で付箋紙を活用することの意義について理解できていることを示している。また、教師の「物事を復習するときに、突然『あ、この単語知ってた！』」と思って、その単語を知っていることを忘れていた自分に驚くことはないですか」という問いに対して、児童が「ええ、それは脳の奥にあるものが手前に移動するからです」と答え、「そして、それが飛び出してきて、「ああ、そうだ、覚えている」という感じです」と述べている点から児童が自身の言葉の認知の仕方についてメタ的に認識しようとしていることを窺い知ることができる。

そして、最後に児童が「辞書引きが使われるようになる」といいですね。別の学校に行っても、他の人が辞書引きのことを知っていて、他の人も使い始めて、それが広まって、普通の学用品のように使うようになる」といいですね」と述べていることから、辞書引きの習慣が児童のフランス語学習における有用感に繋がっていることが分かる。

4. 研究の考察

本研究では、複言語主義に基づく汎用的言語学習方略モデルとしての「辞書引き学習」のフランス語学習への導入効果の検証を英国の小学校教師と児童に対して行ったインタビュー逐語記録から行った。逐語記録は教師児童間で行われたフランス語学習と辞書引き学習に関する応答の様子を記録したものである。本研究では複言語主義に基づく教育のめあてとして、3つのめあてを持つことの重要性を指摘した。

- ① 複数の言語や文化を理解しそれを活用するだけでなく、言語や文化を架橋する習慣を獲得すること
- ② 複数の言語や文化を学習する際、それぞれの言語的・文化的性質の異同を理解するメタ言語的視点を獲得すること
- ③ 以上の習慣や視点を獲得し、複数の言語学習を効率化するための汎用的な学習方略モデルの開発をすること

考察ではこの3つのめあてに則してフランス語の辞書引き学習が実施されていたのかどうかを検証する。

「クリスマスのストーリー」言語や文化を超えて共有されている教材「クリスマスのストーリー」の学習では実際に知っているフランス語語彙が登場することに児童は気が付いているものの、児童はその語彙を活用しようという気にはなれないと述べている。その一方で、辞書引き学習により、語根や接頭辞、接尾辞などに注目し、メタ的な言語能力を獲得することにより、他の語彙に触れたときに、その能力を発揮しようとする、そして、辞書引き学習の習慣がフランス語と英語を紐づけながら語彙学習を邁進させる力となっていることがインタビュー

の記録から窺われる。これらの事実、目標①に迫る事実であると見做すことができる。

教師と児童は、英語とリンクしているのはフランス語だけではなく他のヨーロッパ言語ともリンクしており、それぞれの単語がどの単語に由来したのかその単語を他の言語の単語から見てみることのよさについて児童は強調している。そして、教師も英語は他の言語を上手く借用していることへの気づきを促す発言をしている。また、英語の発音と綴りの関係と、フランス語の発音と綴りの関係についての児童の気づき、具体的には英語では発音しない語尾の“e”をフランス語では発音するなどの気づきなどもインタビュー記録から読み取ることができる。以上のことから、児童が「言語構造」という言葉そのものは理解できていないとしても、言語間を架橋してそれぞれの言語を言語構造的に見る目線が形成されつつあることを示すものである。これらの事実、目標①と②に迫る事実であると見做すことができる。

次に、スクリーンの辞書と辞書引き学習によって用いられる紙の辞書の機能の違いについてである。児童らはスクリーン（デジタル辞書）で調べていたときは、言葉の意味だけを読んでしたが、紙の辞書を使用するようになって、文脈を理解し、文脈に相応しい言葉の意味を選択するようになったと言う。「知らない単語があったらどうするのですか」「英語からフランス語を引き、正しい単語を探します」という応答は、英語の語釈を読み、どれがここで記されているフランス語単語の意味に該当するのかを丁寧に読み取ろうとする態度を身に付けていることが分かる。これは、言葉を調べることも、日常的に言葉を読むことを重視する辞書引き学習の習慣が為せる技である。言葉の意味には複数の意味があることを日ごろから辞書を読んでいる児童にとっては当たり前のことで、フランス語辞書の英語表記の語釈を読んでからフランス語を理解しようとしている日常の習慣がそのような紙の辞書の使い方をさせているのである。興味深いのは、「辞書引き学習」による付箋を活用しての学び方が、コンピュータの用語の「スクロール」や「コンピュータのファイル」という例示で説明されていることである。つまり、コンピュータがしていることを、紙の辞書と付箋を

用いる「辞書引き学習」で児童が行っているということ、教師と児童が認識していることである。付箋でタグ付けすることにより、「ポスト・イットを貼るとすぐに答えを見つけ出せるので本当に便利です」と児童が述べているが、スクリーンの辞書のことを便利と言わず、辞書引き学習における付箋が便利だという趣旨の発言は、児童の学習にとって便利であるということの意味を問い直させる発言であると考えられ、デジタル教材の意味を検討する切り口となるのではないだろうか。また、何度も単語を読み直し、「脳内で何かが起こって、ファイリング・システムの中から情報を探し出すんです」という教師のデジタル用語を用いたアナログ学習のメタファーは、デジタルとアナログの架橋をするものであり興味深い。これらの、紙の辞書と紙の付箋を用いた「辞書引き学習」の習得は、③の目標に迫るものである。

5. おわりに

本稿で取り上げた、英国ウスターシャー州、キャッスルモルトンCE小学校では、第1言語の英語カリキュラムと併行して、第2言語のフランス語カリキュラムを実施している。英語授業で実践している英語辞書引き学習の習慣がフランス語学習においても援用され、フランス語学習においても辞書引き学習の習慣が維持されていることが分かる。これらの様子から汎用的な言語学習方略モデルとしての辞書引き学習の有効性が確認できる。指導する教師は英語においてもフランス語においても、それぞれの語彙構造に関する興味を引き出し理解を深めることの重要性は認識しており、教師の発言においてもその点を強調する発言が随所で見られている。教師の汎用的言語学習方略モデルに対する期待の大きさを感じることができる。

本研究を含め、これまで英国で継続して取り組んできた複言語を架橋する汎用的な言語学習方略の習得に関する実践研究は、複言語主義に基づく現代的な言語教育を実現する上において有効である。今後も英国における複言語学習に関する実践研究を更に進め、研究を深めていきたい。

追記

本論文で取り扱われているデータはその使用目的や講ずる措置を研究の対象者に対し十分に説明した上で必要な範囲の個人情報に限り収集した。これらのデータは英国キャッスルモルトンCE小学校において児童の個人情報が特定できないことを確認した上で、許可を得て掲載するものである。協力者各位には厚く御礼申し上げる。

本研究は、令和4年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究B「複言語学習における汎用的な言語間共通学習方略モデルの開発に関する国際比較研究」（課題番号：20H01294）による助成を受けて実施したものである。

注

- 1) 例えば、公益財団法人日本英語能力検定協会では、CEFRについて、英語能力検定受験者個人成績表に以下の様な文言を付して説明している。「国際標準規格のCEFRにも対応しています、CEFR（Common European Framework of Reference for Language）とは「ヨーロッパ言語共通参照枠」と呼ばれるもので、外国語の学習者、教授者及び評価者が、その熟達度を同一の基準で判断することが出来るように開発された枠組みです」この文言では、CEFRのことを国際標準規格の言語熟達度評価枠組であると説明しており、CEFRの理解が偏重したものになっていることを窺い知ることができる。
- 2) 境一三、山下一夫、吉川龍生、縣由衣子『外国語教育を変えるために』三修社、2022年、79-80ページ。
- 3) Castlemorton C.E. Primary School
所在地：Church Road Castlemorton, Near Malvern
Worcestershire. WR13 6BG

- 4) スプリット・ダイグラフ (Split digraph) とは、フォニックスで、離れた2文字で1音を表す母語ダイグラフ (Vowel digraph) の法則のこと。Vowel digraphは2文字で固有の一音を表すもので、それぞれの母音を続けて発音する音とは異なる。Digraphは日本語で二重音字とも呼ばれる。日本語が46音なのに対し、英語には44音があるが、アルファベットは26文字しかないので、digraph (ダイグラフ、2文字で一音) を使って音を表している。“What is a Digraph?” <https://www.twinkl.jp/teaching-wiki/digraph> (2023年5月5日)

参考文献

- 境一三、山下一夫、吉川龍生、縣由衣子『外国語教育を変えるために』三修社、2022年。
- 深谷圭助、吉川龍生、関山健治「イギリスの公立小学校における辞書引き学習の導入と教師の学び」中部大学現代教育学部『現代教育学部紀要』第14号、2022年、pp27-35。
- 深谷圭助、吉川龍生、王林鋒、関山健治「イギリスの小学校英語教育におけるJB（辞書引き学習）モデル導入事例に関する考察」日本外国語教育推進機構『複言語・多言語教育研究』（第8巻、2020年、pp151-160。
- 深谷圭助、吉川龍生「語彙習得学習における語種間共通方略モデルの開発とその実践—辞書引き学習の動機づけと方略の有効性をめぐって—」『現代教育学部紀要』（第12号、2020年、pp47-55。
- 深谷圭助「子供と言葉の出会いに関する国際比較研究—イギリスと日本における『辞書引き学習』の導入事例を中心に—」（『現代教育学部紀要』第10号、2018年、pp47-59。
- “What is a Digraph?”
<https://www.twinkl.jp/teaching-wiki/digraph> (2023年5月5日閲覧)

受付日 2023年3月15日

受理日 2023年5月17日

Abstract

This study examines the effectiveness of the CEFR's bilingualism-based generic linguistic common learning strategy model of 'lexical learning (Jishobiki)' in the teaching of French to Year 6 pupils in the primary school in the UK. Specifically, we examine whether the practice of 'lexical learning (Jishobiki)' as a generic learning strategy model fulfils the aims of bilingualism through a qualitative analysis of verbatim transcripts of responses between teachers and pupils on French language learning and lexical learning (Jishobiki).